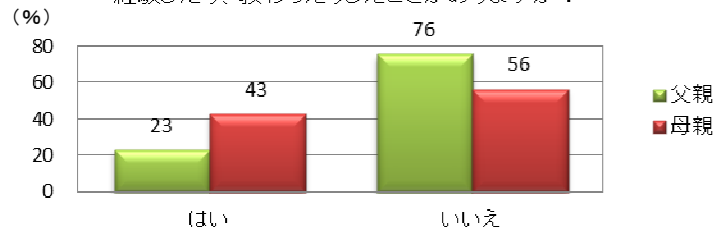


親になることについて学びましょう



図9 親になる前に、小さな子どもの世話を実際に経験したり、教わったりしたことがありますか？



親になる前に乳幼児との直接経験があるかどうかの問いに対して、父母をあわせると、半数以上が小さい子どもの世話を実際に経験したり、教わったりすることがないままに親になっていることがわかりました。

また、図11のように親になる前に乳幼児との直接経験がある人の方が、子育てが楽しいと思っている人が多いという結果がでました。

図10 子育てが楽しいと思うことがありますか？

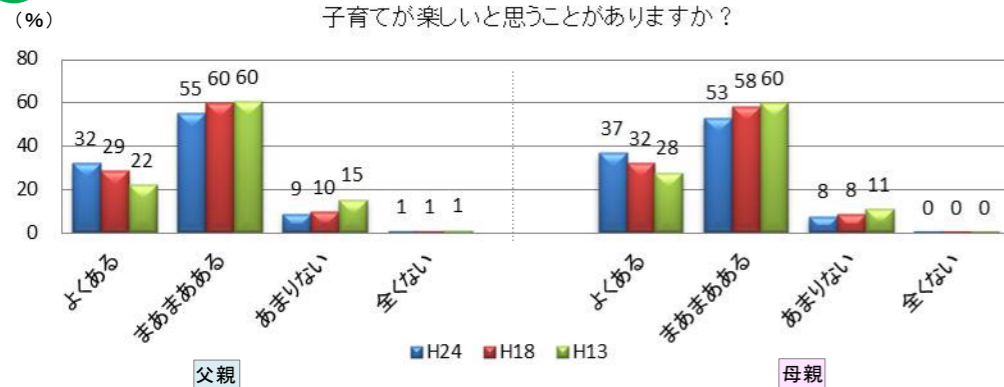
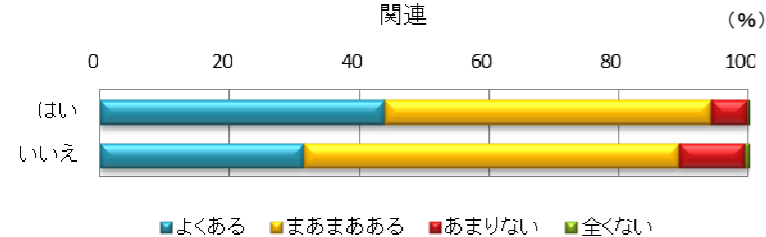


図11 「親になる前の小さな子どもへの関わりと子育ての楽しさ」との関連



書籍や様々なメディア等を通じて、子育ての情報を容易に得ることができるようになっていますが、経験や学習は少ない実態がうかがえました。親への感謝の気持ちを育むという意味からも、親になる前の小中高生の時期に、乳幼児と関わる場や学習の機会をもつことが大切です。



一人で悩まず

気軽にアクセス

- HP「ふくおか子育てパーク」
～子育てに役立つ情報がいっぱい～
- 子育ての悩みは「メール相談」
～先輩ママがお受けします～
soudan@kosodate.pref.fukuoka
- 家庭教育相談電話「親・おや電話」
～専門の相談員がお受けします～
電話 092-947-3515
月曜～土曜(9:00～17:00)
※センターの休所日、第2月曜、第4土曜、祝日は除く

ふくおか子育てパーク 検索
P C:<http://www.kosodate.pref.fukuoka.jp/>
携帯:<http://www.kosodate.pref.fukuoka.jp/m>

編集／発行
福岡県立社会教育総合センター
糟屋郡篠栗町大字金出3350-2
電話 092-947-3512

32年の推移をふまえて

子育て 家庭教育 みんなで考えてみませんか？



福岡県教育委員会では、平成24年度に小学生をもつ保護者を対象に「養育態度・意識の実態に関する調査」を行いました。昭和55、平成3、8、13、18年度に続く、6回目の調査となります。

この調査結果をもとに、ダイジェスト版を作成しました。32年の推移をふまえ、これからの子育て支援や家庭教育の在り方を探るヒントとして活用いただければ幸いです。

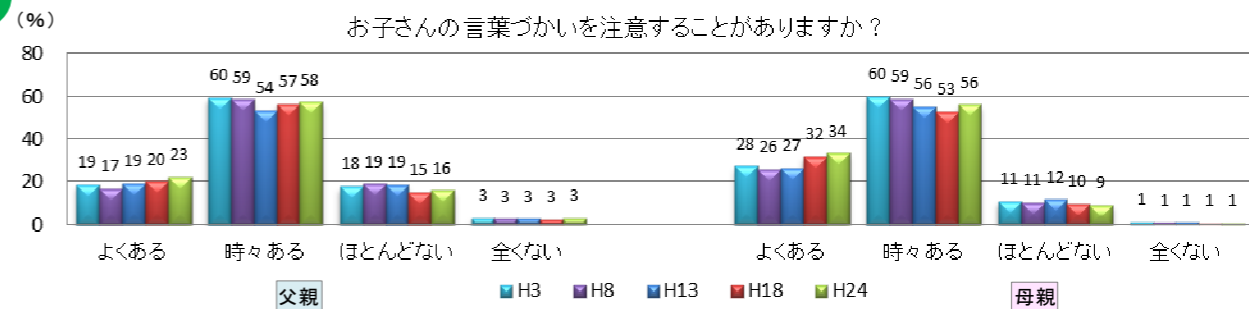
対象者：県下13小学校 全学年の父親、母親
有効回答数：父親 2187名 母親 3147名 合計 5334名
※グラフについては、無回答の度数を省略しています。

自立に向けた関わり方を意識しましょう

図1 お子さんの身の回りの世話をしている方といますか？



図2 お子さんの言葉づかいを注意することがありますか？



子どもの身の回りの世話を「している」と回答した父親は49%、母親は84%で、過去最高の数値を示しました。また、言葉づかいへの注意でも、「よくある」と回答した父親が23%、母親が34%と、こちらも過去最高の数値でした。これらは、子どもへの関心が高いことの現れといえます。今後も「できることは自分ですらうとする」声かけや、社会の中で周りの人たちとつながっていくための「適切な言葉づかい」を伝えるなど、子どもの自立に向けた関わり方を意識して行っていきましょう。

一緒に遊び、じっくり話を聞きましょう



図 3

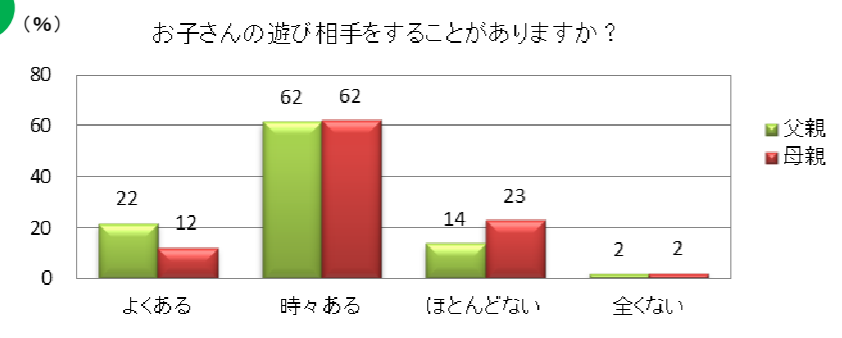


図 4

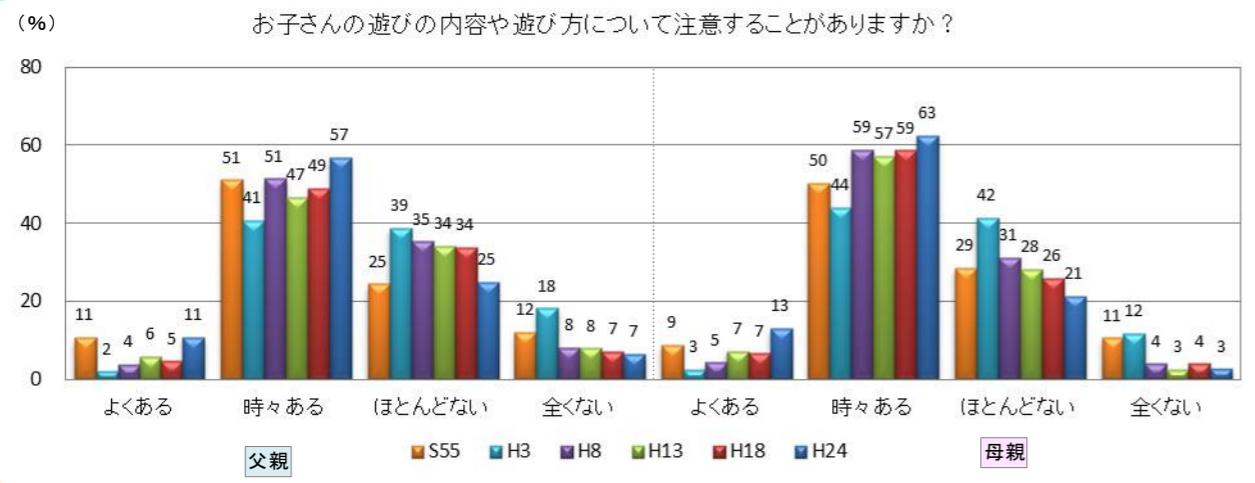
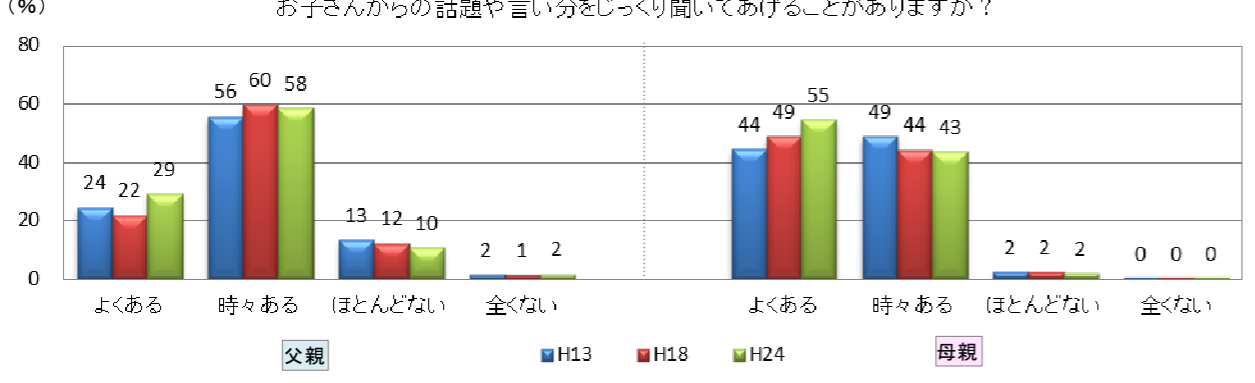


図 5



子どもの遊び方について注意することが「よくある」「時々ある」と回答した父親・母親は平成 18 年度と比べるとその割合が高くなっています。子どもの遊び相手をするかどうかについても「よくある」「時々ある」との回答が父母ともに前回より高くなっており、さらに、子どもからの話題や言い分をじっくり聞いてあげるかについても、「よくある」との回答が高い数値になっています。子どもの遊びについて、ただ注意をするのではなく、一緒に遊び、じっくり話を聞くなど、子どもと過ごす時間をもって、子どもの心に深く寄り添っていくことが親子のよりよい関係づくりにつながっていきます。



地域との関わりを通して 子どもの社会性を育みましょう

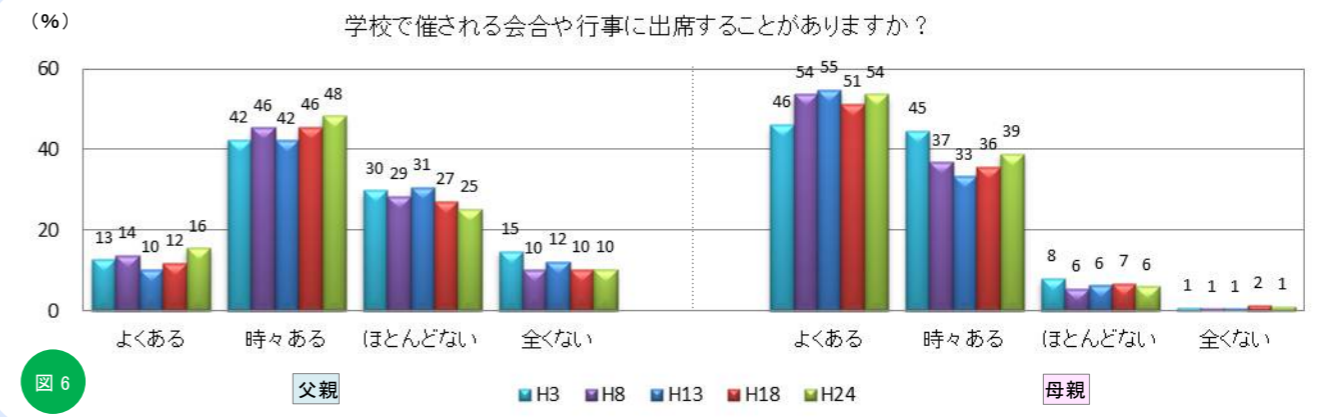
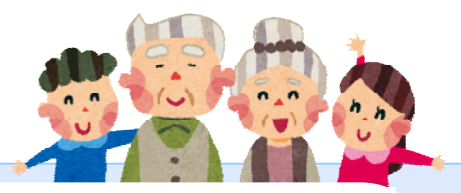


図 6

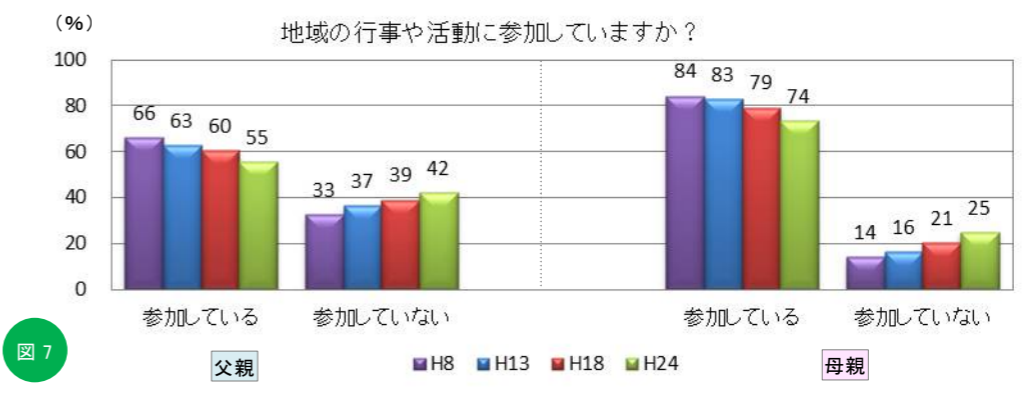


図 7

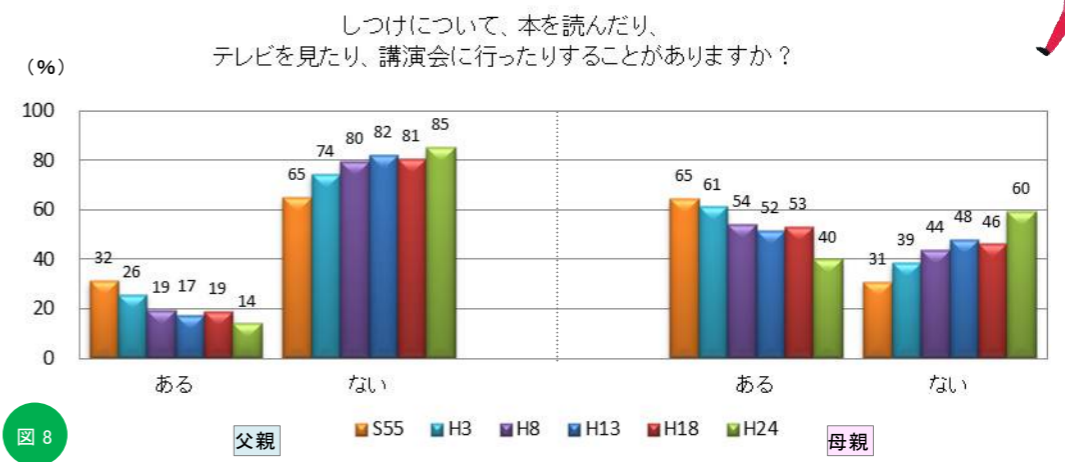


図 8

学校行事への参加について、「よくある」「時々ある」は父母ともに平成 18 年度より高い数値を示しており、学校と学校での子どもの様子への関心が高くなっています。しかし、地域行事への参加については、父母ともに年々減少し続けています。さらに、しつけに関する学習についても、活動の割合が低下し続けていることがわかりました。子どもは、家庭の中だけで育つわけではありません。また、しつけについて学ぶ機会をもつことは、子育てへの不安や孤立感を減らすことにもつながります。親が地域との関わりの中で自ら学びながら子育てができるような場づくりへの取組が望まれます。

